

新しい江北図書館を目指して

公益財団法人 江北図書館 基本方針

令和3年10月

はじめに

江北図書館は、114年にわたり伊香郡の歴史に深く根付き、地域住民の知的拠り所として、地域の有志をはじめたくさんの関係者によって運営されてまいりました。これもひとえに、杉野氏の「自分がもし成功したら、郷里に図書館を建て、青少年に勉学の場を与えてあげたい」という志に共感したことにほかなりません

時代の変遷とともに、「これを調べに図書館に行く」時代から、インターネットの普及や電子書籍等によりその役割にも変化が訪れています。しかしながら、地域に根差し住民の心に刻まれてきた江北図書館は、今後の地域の持続的発展に欠かせないものとして、次の時代へと引き継ぐ必要があるものと強く確信しております。

今後、地域の未来に貢献できる江北図書館として新たに創造し、チャレンジしていくためここに基本方針を定めます。

2021年10月

公益財団法人 江北図書館

令和3年度 理事一同

江北図書館の歴史

- 江北図書館は旧伊香郡出身の弁護士杉野文彌ぶんやが開設した「杉野文庫」を前身として、明治39年（1907）に設立された滋賀県内で最も古い私立図書館です。
- それ以来、伊香郡役所の支援のもとに運営されてきましたが、大正末年の郡制の廃止、昭和初期の戦争の混乱などにより、運営は困難を極めました。多くの私立図書館が消滅するなか、地域住民の篤い支えにより運営を続けて来ました。
- 昭和49年（1974）からは、伊香郡町村会から支援を受けられるようになり、昭和50年（1975）からは旧伊香郡農会の建物を購入し、今に至っています。
- 平成23年（2011）には、「社団法人伊香相救社」そうきゅうしゃから財産を譲り受け、公益財団法人江北図書館として、再出発しました。しかし、平成22年（2010）年に伊香郡内の町が長浜市と合併したことにより、伊香郡町村会からの支援が受けられなくなり、今後の運営は資金的に見通しが立たないのが現状です。

地域に貢献できる図書館を目指して

- 創設者杉野文彌が抱いた、青少年育成と地域文化の向上の思いを大切に引き継いでいきます。
- だれもが、安全な施設内で、安心して図書や史料が利用できる、地域に解放された図書館を目指します。
- 地域の魅力を集め発信し、ともに学び育ち合い、未来のまちを創造できる図書館を目指します。

◆ 人にやさしい図書館をめざして

- ・子どもの本を厳選して開架し、親子で気軽に利用できる閲覧・利用環境の改善
- ・青少年が利用しやすい環境整備や青少年が参加できる事業の展開
- ・所蔵図書のデジタル化等による利用環境の改善
- ・館内での「読み聞かせ会」・ワークショップの積極的な開催、「読書感想文」作成等の支援
- ・学生へ課外活動の場を提供し、自習スペースを確保するなど、「学び」の場を提供する環境整備
- ・「まち」へ出向き、本の魅力を伝える活動
- ・一人で安心して静かに本が読める環境整備

◆ 貴重な歴史資料の活用

- ・旧伊香郡役所文書・伊香相救社文書・伊香郡内明治期地籍図・柳ヶ瀬文書など多くの歴史資料の調査・研究の促進
- ・歴史資料を活用した研究発表会、講演会、史跡探訪会などの開催
- ・江北図書館が収蔵する江戸時代や明治時代の古典籍の活用を図る
- ・貴重図書を次世代に引き継ぐため、保管や利用環境の改善する

◆ レトロな姿を次世代へ

- ・明治創設の図書館の特殊性を重視し、昭和12年（1937）建造の建物を維持し活用する
- ・時を刻んだ建物を安心して利用できるよう、必要な修繕を早急に行う
- ・昔ながらの備品を大切に活用し、雰囲気を残す図書館づくり

◆ 地域の「まちづくり」への貢献

- ・ 前庭を活用したイベントを積極的に行ない、関係人口を増やす事業の展開
- ・ 図書館を地域住民が気軽に利用できる活動の場として提供
- ・ 地域内外のクリエイターの交流・協働の場となる事業展開とワーキングスペース等の提供
- ・ 地域の情報収集と発信の拠点づくり
- ・ 地域内の店舗等と連携した図書館づくりを行ない、本館を核とした「本の町」の創造

◆ 情報発信の充実

- ・ 「図書館だより」の発刊、マスメディアの協力や SNS の活用を促進し、図書館情報やイベントなどの情報発信の充実を図る